

中教審での意見発表
「大学教員の教育力の向上」
平成18年11月17日

桜美林大学 潮木守一



学部教育の実態

- 単位認定の実態
- 不合格にできない理由
- 大量生産教育。一つの教室に、300名、400名といった大量受講生。
- 不合格にすれば、次学期に再び受講することになる
- 混雑した教室がますます混雑する



学習意欲に燃えて入学してくる 学生はいる

- 私語の横行する大学への幻滅
- 勉強しようがしまいが、単位はとれる
- 学習意欲の低下
- 意欲の高い学生には気の毒な状況になっている

単位認定を厳しく—教師の戦略

1

- 出席チェック
- 出席をとる授業＝私語
- 出席をとらない授業＝成り立たない
- 出席を取らないのは、不公平であるとの不平・不満



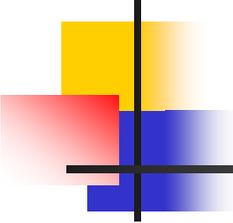
教師の戦略2

- 小テスト実施
- 成績管理が大変
- 300名のクラスと4つ担当していると、1200の小テストの点検・記帳



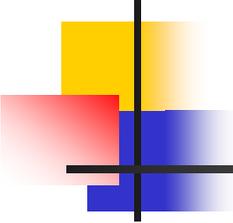
教師と学生との関係

- 単位認定の厳しい教師
- 授業評価が悪くなる
- 受講生が減ってゆく
- 卒業時に必ず起こる駆け込み単位認定
- 眼をつぶっての単位認定



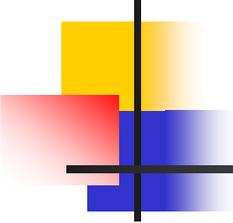
教師の戦略3

- 単位認定が厳しいとの風評を流す
- 受講生減にはなるが、同僚に迷惑
- 「仏の誰々」から「鬼の誰々」への意図的変身
- 結局は「もぐら叩き」



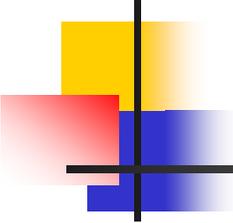
大学としての戦略

- 単位認定が厳しい、進級が容易でない、卒業が簡単にできない大学
- 受験生の減少
- 経営面に影響
- 世間並みの単位認定、進級判定、卒業判定
- 「教育的配慮」の横行



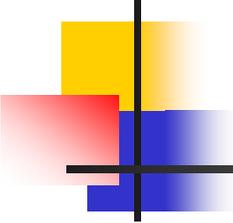
問題の所在

- 個々の教員による単位認定は限界
- 個々の大学による卒業認定も限界
- 大学に対する社会的信頼をどうやって取り戻すのか？



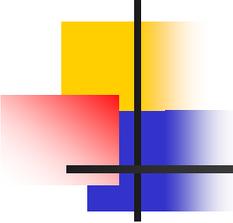
ささやかな提案

- 第三者機関による学力評価
- 共通教科書の編集作成
- 共通試験による評価



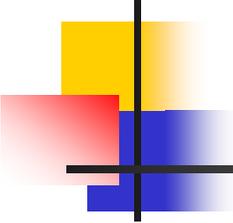
標準教科書作成

- 学生への具体的ゴール提示
- 保護者への契約書
- 一般社会への説明責任
- 敗者復活のチャンス
- 入試偏差値に代わる、大学での学習成果評価
- 採用者側にとっても、合理的な判断基準



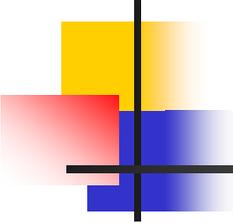
教員はコーチ役

- 教員は共通試験のための準備教育のコーチ役
- 学生が分かるまで教える必要がある
- 合格率による授業評価
- 現行の人気投票より合理的



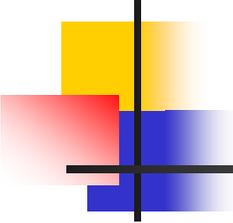
単位認定の基準設定

- 経営上の問題
- 80%以上とらなければ単位認定をしない大学
- 20%でも単位認定をする大学
- 受験生が増えるか減るかは神のみぞ知る
- 神の声を聞き取るのは経営者の責任



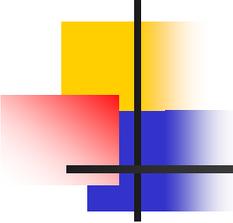
標準教科書の作成

- 出版社との協同作業
- テスト版をもとに逐次改定
- 試験問題の工夫



実現可能性は

- 全分野について、全国一斉導入は困難
- できる分野、希望する大学から逐次導入



お願い

- 大学設置基準で一クラスの受講生の上限を設定して欲しい
- 数値基準が必要